

I. 住民基本台帳に基づく人口及び人口動態の概要

1. 住民基本台帳に基づく人口

図1 人口及び1世帯当たり人員の推移

(1) 概要

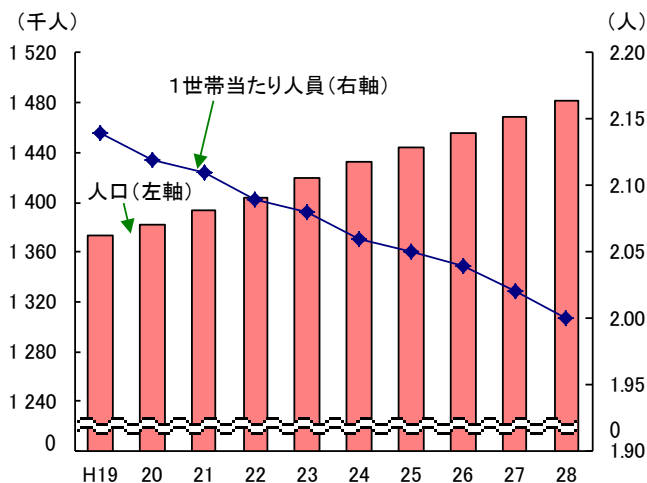
1世帯あたり世帯人員2.00

世帯規模の縮小続く

住民基本台帳に基づく平成28年9月末現在の福岡市の日本人人口は1,481,343人で前年（平成27年9月末現在）に比べ12,925人増加し、増加率は0.9%となっています。世帯数は738,900世帯で、前年に比べ12,029世帯増加し、増加率は1.7%となりました。

性別に見ると、男性は701,167人で、前年と比べて5,785人増加し（対前年増加率0.8%）、女性は780,176人となり、前年と比べて7,140人の増加（同0.9%）となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は89.9となりました。

1世帯あたり人員は2.00人で、前年比0.02人の減少となりました。人口・世帯数ともに増加傾向にあります。世帯数の伸び率が人口の伸び率を上回っているため、1世帯あたり人員は減少が続く、世帯規模の縮小が続いています。



(2) 行政区別人口

全区で世帯規模縮小

行政区別に見ると、城南区の人口の微減を除き、人口、世帯数ともに全ての区で増加しています。人口は東区の294,851人が最も多く、次いで南区、博多区の順になっています。世帯数は、東区の140,039世帯が最も多く、以下、博多区、南区と続いており、人口、世帯数ともに最も少ないのは城南区となっています。人口増加数は、博多区の3,922人が最も多く、次いで東区の3,869人となっています。世帯増加数も、

表1 世帯数及び人口等の推移

(各年9月末現在)

年	世帯数		人口	前年増加率	男		女		性比	1世帯あたり人員
	世帯	前年増加率			人	人	人			
平成19年	642 514	1.8	1 372 840	0.9	652 935	719 905	90.7	2.14		
20年	652 282	1.5	1 382 563	0.7	656 798	725 765	90.5	2.12		
21年	662 040	1.5	1 394 017	0.8	662 176	731 841	90.5	2.11		
22年	671 525	1.4	1 404 525	0.8	667 402	737 123	90.5	2.09		
23年	683 885	1.8	1 419 311	1.1	674 197	745 114	90.5	2.08		
24年	694 512	1.6	1 432 532	0.9	679 533	752 999	90.2	2.06		
25年	705 454	1.6	1 444 783	0.9	684 982	759 801	90.2	2.05		
26年	715 395	1.4	1 456 323	0.8	690 069	766 254	90.1	2.04		
27年	726 871	1.6	1 468 418	0.8	695 382	773 036	90.0	2.02		
平成28年	738 900	1.7	1 481 343	0.9	701 167	780 176	89.9	2.00		

博多区が3,325世帯と最も多く、東区が2,877世帯で続いています。

性比を見ると、東区が94.4と最も高く、次いで博多区の94.1で、他の区と比べて男性の割合が高くなっています。最も低い中央区は79.1で、他の区と比べて女性の割合が高いことが分かります。1世帯当たり人員を見ると、最も多いのは西区の2.25人で、以下、早良区、東区の順になっており、中央区(1.71人)と博多区(1.71人)は、福岡市全体の2.00人を下回っています。

人口密度は、中央区が11,608人/㎢

と最も高く、早良区が2,244人/㎢と最も低くなっています。

(3) 年齢別人口

老年人口割合の上昇が続く

福岡市の平均年齢は、男性が41.7歳、女性が44.6歳、全体は43.2歳となり前年に比べ0.2歳上昇しました。

年齢区分別の構成比を見ると、福岡市全体の15歳未満の「年少人口」の割合は13.9%で、前年同比となりました。15～64歳の「生産年齢人口」の割合は65.1%で、前年と比べ0.5ポイント低下し、65歳以上の「老年人口」の割合は21.0%で、前年と比べて0.5ポイント上昇しました。

行政区別に見ると、年少人口の割合が福岡市全体の割合(13.9%)より高いのは、西区、早良区、東区及び南区で、生産年齢人口の割合が福岡市全体の割合(65.1%)より高いのは中央区と博多区、老年人口の割合が福岡市全体の割合(21.0%)より高いのは、城南区、南区、西区、早良区及び東区となっています。

年齢構成指数を見ると、「年少人口指数(生産年齢人口100に対する年少人口の比率)」は21.3、「老年人口指数(生産年齢人口100に対する老年人口の比

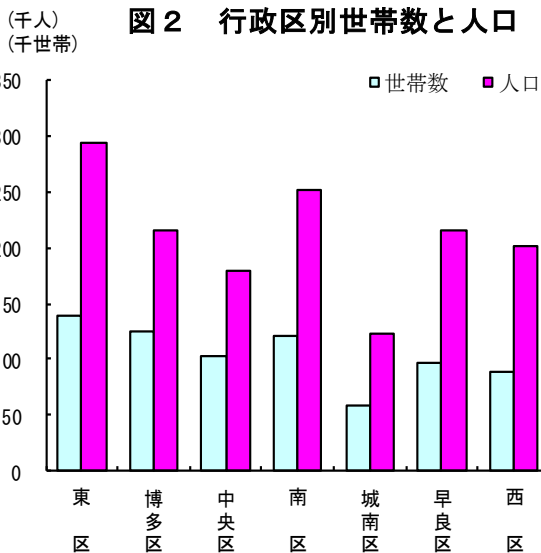


表2 行政区別世帯数及び人口

(各年9月末現在)

市・区	平成27年		平成28年										
	世帯数	人口	世帯数	増加率	人口	増加率	構成比	男	女	性比	1世帯当たり人員	面積	人口密度
	世帯	人	世帯	%	人	%	%	人	人		人	㎢	人/㎢
福岡市	726 871	1 468 418	738 900	1.7	1 481 343	0.9	100.0	701 167	780 176	89.9	2.00	343.39	4 314
東区	137 162	290 982	140 039	2.1	294 851	1.3	19.9%	143 148	151 703	94.4	2.11	69.36	4 251
博多区	122 551	211 599	125 876	2.7	215 521	1.9	14.5%	104 462	111 059	94.1	1.71	31.63	6 814
中央区	102 957	176 859	104 711	1.7	178 757	1.1	12.1%	78 926	99 831	79.1	1.71	15.40	11 608
南区	120 401	250 778	122 082	1.4	252 385	0.6	17.0%	118 348	134 037	88.3	2.07	30.98	8 147
城南区	58 988	122 709	59 423	0.7	122 671	△0.0	8.3%	58 000	64 671	89.7	2.06	15.99	7 672
早良区	96 649	214 892	97 121	0.5	215 113	0.1	14.5%	101 848	113 265	89.9	2.21	95.87	2 244
西区	88 163	200 599	89 648	1.7	202 045	0.7	13.6%	96 435	105 610	91.3	2.25	84.17	2 400

注) 面積は平成28年10月1日現在

表3 年齢階級別人口及び平均年齢

(平成28年9月末現在)

年 齡 (5歳階級)	福岡市			東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
	総 数	男	女							
総 数	1 481 343	701 167	780 176	294 851	215 521	178 757	252 385	122 671	215 113	202 045
0～4歳	71 016	36 545	34 471	14 998	9 906	7 377	12 248	5 460	10 391	10 636
5～9	69 479	35 513	33 966	14 906	7 834	6 596	12 030	5 924	11 428	10 761
10～14	64 877	33 281	31 596	13 910	6 985	5 950	11 161	5 538	11 160	10 173
15～19	68 401	34 581	33 820	14 183	8 244	6 618	11 897	6 033	11 046	10 380
20～24	84 917	40 214	44 703	16 666	15 954	11 210	13 224	7 162	10 392	10 309
25～29	94 488	44 051	50 437	17 240	20 616	14 980	14 447	6 583	10 492	10 130
30～34	107 980	51 916	56 064	20 137	20 476	16 242	17 256	7 590	13 217	13 062
35～39	114 253	55 282	58 971	21 857	18 225	16 120	18 901	8 657	15 560	14 933
40～44	123 589	60 526	63 063	24 678	18 163	15 909	20 842	9 876	17 660	16 461
45～49	111 423	54 520	56 903	21 793	15 457	14 223	19 124	9 073	16 518	15 235
50～54	90 468	43 862	46 606	17 859	12 143	11 418	15 781	7 479	13 361	12 427
55～59	83 285	40 695	42 590	16 524	11 077	9 750	14 695	7 192	12 976	11 071
60～64	86 286	41 543	44 743	17 505	11 112	9 481	15 113	7 679	13 524	11 872
65～69	101 411	47 775	53 636	20 621	13 014	10 840	17 889	9 135	15 723	14 189
70～74	65 704	29 091	36 613	13 242	8 385	6 857	11 568	6 018	10 104	9 530
75～79	56 276	23 295	32 981	11 364	7 151	5 713	10 123	5 205	8 556	8 164
80～84	43 794	16 460	27 334	8 698	5 402	4 689	8 075	4 101	6 517	6 312
85～89	26 909	8 360	18 549	5 289	3 316	2 917	4 985	2 458	4 011	3 933
90～94	12 691	3 067	9 624	2 572	1 576	1 394	2 278	1 148	1 875	1 848
95～99	3 481	532	2 949	688	418	395	637	303	514	526
100歳以上	615	58	557	121	67	78	111	57	88	93
平均年齢	43.2	41.7	44.6	43.0	41.9	42.8	43.8	44.3	43.6	43.3
(区…男)				41.6	40.7	41.4	42.1	42.5	42.0	41.6
(区…女)				44.4	43.0	43.9	45.3	45.9	45.1	44.8

表4 年齢別(3区分)人口

(各年9月末現在)

年 齡 区 分	平成27年	平 成 28 年							
	福岡市	福岡市	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
年 少 人 口 (15歳未満)	204 346	205 372	43 814	24 725	19 923	35 439	16 922	32 979	31 570
構成比(%)	13.9	13.9	14.9	11.5	11.1	14.0	13.8	15.3	15.6
生 産 年 齢 人 口 (15～64歳)	963 574	965 090	188 442	151 467	125 951	161 280	77 324	134 746	125 880
構成比(%)	65.6	65.1	63.9	70.3	70.5	63.9	63.0	62.6	62.3
老 年 人 口 (65歳以上)	300 498	310 881	62 595	39 329	32 883	55 666	28 425	47 388	44 595
構成比(%)	20.5	21.0	21.2	18.2	18.4	22.1	23.2	22.0	22.1

率)」は32.2となっています。この二つを合わせた、生産年齢人口の扶養負担程度を示す「従属人口指数」は53.5で、前年に比べ1.1ポイント上昇しています。また、生産年齢人口の影響を受けないため、高齢化を敏感に示す「老年化指数（年少人口に対する老年人口の割合）」は151.4で、前年より4.3ポイント上昇しています。

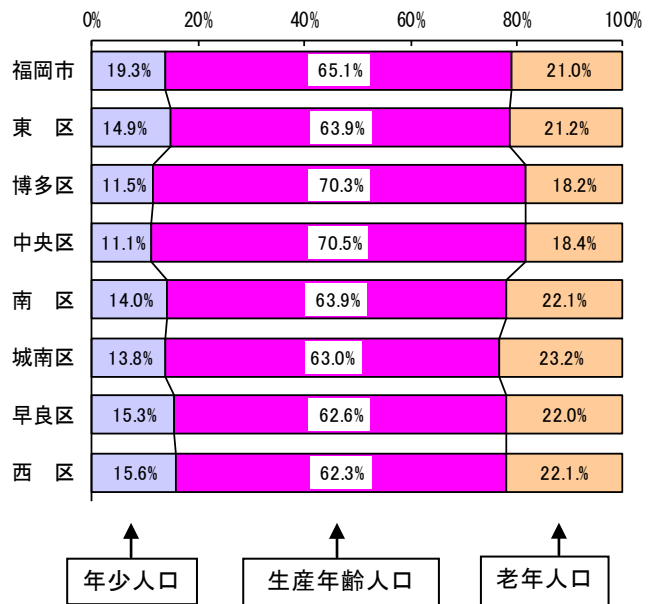
平成2年からの推移を見ると、総人口は増加しているものの、総人口に占める年少人口と生産年齢人口の割合は低下し、一方で、老年人口の割合は上

昇しており、福岡市においても高齢化が進んでいることを示しています。

「人口ピラミッド」（5歳階級）を見ると、第1次ベビーブーム世代（1947～49年生まれ）を含む60歳代と、第2次ベビーブーム世代（1971～74年生まれ）を含む40歳代の人口が多く、19歳以下の人口が特に少ないことが分かります。

行政区別に見ても、概ね同じ傾向にあります。博多区や中央区は、20歳代後半から30歳代までの人口が多いという特徴があることが分かります。

図3 年齢別（3区分）人口（構成比）
（平成28年9月末現在）



《人口の年齢構成の特徴を表す指数》

年少人口指数

$$= \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年人口指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

従属人口指数

$$= \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年化指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

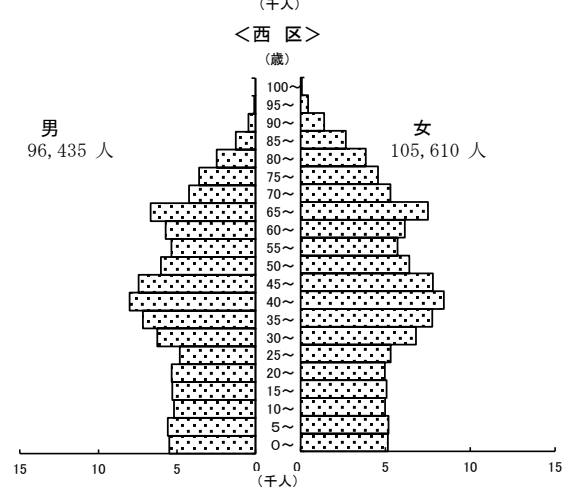
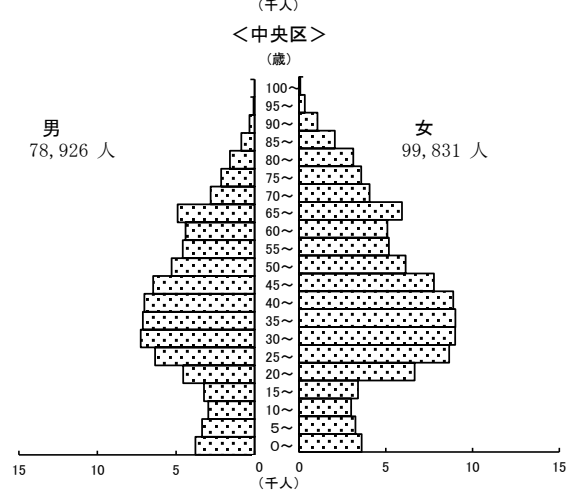
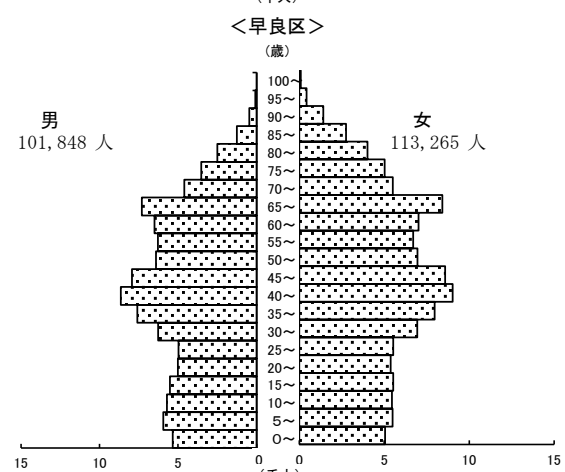
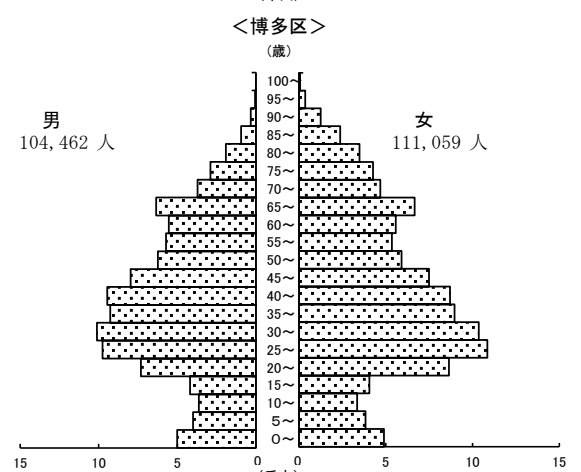
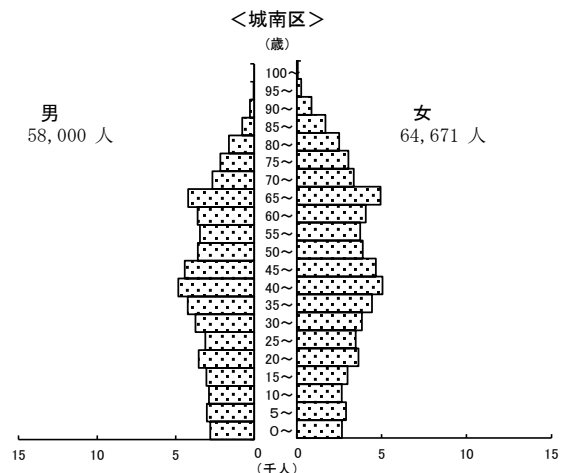
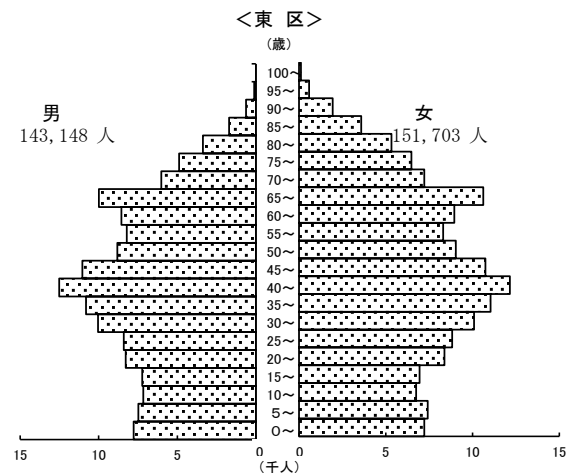
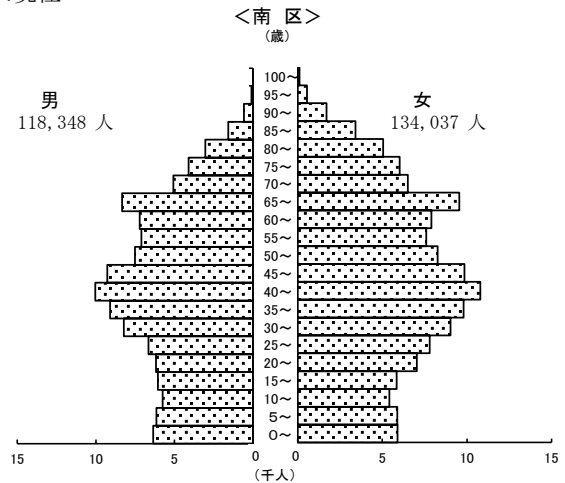
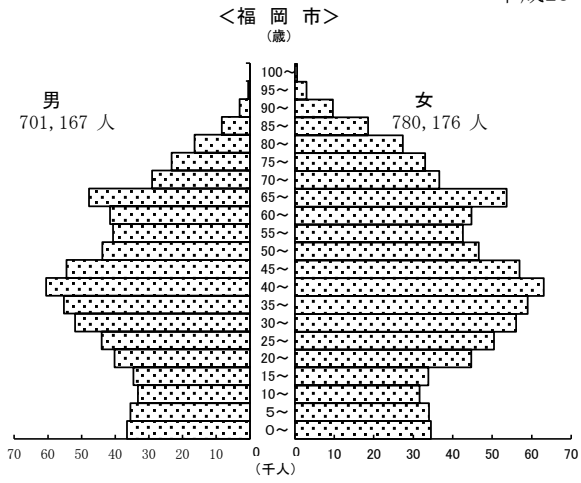
表5 平均年齢，年齢3区分構成比及び年齢構成指数の推移

(各年9月末現在)

年	平均年齢 (歳)	人口総数	年少人口		生産年齢人口		老年人口		年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数
			構成比	構成比	構成比	構成比						
平成2年	35.3	1 197 989	230 546	19.2%	856 772	71.5%	110 671	9.2%	26.9	12.9	39.8	48.0
7年	37.2	1 238 762	204 554	16.5%	895 018	72.3%	139 190	11.2%	22.9	15.6	38.4	68.0
12年	38.8	1 291 542	190 824	14.8%	927 609	71.8%	173 109	13.4%	20.6	18.7	39.2	90.7
17年	40.4	1 347 823	189 398	14.1%	950 768	70.5%	207 657	15.4%	19.9	21.8	41.8	109.6
22年	41.9	1 404 525	196 457	14.0%	962 620	68.5%	245 448	17.5%	20.4	25.5	45.9	124.9
27年	43.0	1 468 418	204 346	13.9%	963 574	65.6%	300 498	20.5%	21.2	31.2	52.4	147.1
28年	43.2	1 481 343	205 372	13.9%	965 090	65.1%	310 881	21.0%	21.3	32.2	53.5	151.4

図4 人口ピラミッド（5歳階級）

平成28年9月末現在



(4) 小学校区別人口

女性比率上位5校区 すべて中央区

小学校通学区域別に見ると、人口が最も多いのは平尾校区(中央区)の23,367人で、以下、舞鶴校区(中央区)の21,696人、博多校区(博多区)の21,303人と続いています。人口が最も少ないのは曲淵校区(早良区)の153人で、次いで小呂校区(西区)、勝馬校区(東区)となっています。

前年と比べた人口増加数は、照葉校区(東区)の1,371人増が最も多く、以下玄洋校区(西区)の610人増、博多校区の550人増となっています。

人口増加率は、照葉校区の20.9%が最も高く、次いで香椎浜校区(東区)の8.5%、鳥飼校区(中央区)の7.6%と続いています。

性比を見ると、男性の比率が最も高いのは、吉塚校区(博多区)の110.5で、次いで菅松校区(東区)の109.2となっています。一方、女性の比率が最も高いのは、警固校区(中央区)の71.2で、上位5校区すべてを中央区が占めています。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口割合が最も高いのは照葉校区の32.7%で、次いで金武校区(西区)の24.4%となっています。生産年齢人口割合は、東住吉校区(博多区)の82.1%が最も高く、次いで春吉校区(中央区)の79.6%となっています。老年人口割合は、城浜校区(東区)の48.7%が最も高く、次いで志賀島校区(東区)の44.5%となっています。

老年化指数は、曲淵校区が1,133.3と最も高く、次いで志賀島校区の860.0、城浜校区の670.9が続いています。

表6 校区別人口各種比較(上位5校区)

(平成28年9月末現在)

【人口総数】				【人口増加数】			【人口増加率】				
校区 (行政区)	人口	男	女	校区 (行政区)	人口	増加数	増加率	校区 (行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	人		人	人	%		人	人	%
平尾(中央)	23 367	9 989	13 378	照葉(東)	7 936	1 371	20.9	照葉(東)	7 936	1 371	20.9
舞鶴(中央)	21 696	9 643	12 053	玄洋(西)	15 465	610	4.1	香椎浜(東)	5 895	464	8.5
博多(博多)	21 303	9 885	11 418	博多(博多)	21 303	550	2.7	鳥飼(中央)	738	52	7.6
那珂(博多)	20 621	10 362	10 259	周船寺(西)	15 455	477	3.2	春住(博多)	10 315	424	4.3
住吉(博多)	19 172	9 078	10 094	香椎浜(東)	5 895	464	8.5	東光(博多)	8 453	343	4.2
【性比－男性が多い】				【性比－女性が多い】				【老年化指数】			
校区 (行政区)	男	女	性比	校区 (行政区)	男	女	性比	校区 (行政区)	老年人口	年少人口	老年化指数
	人	人			人	人			人	人	
吉塚(博多)	5 414	4 899	110.5	警固(中央)	7 357	10 332	71.2	曲淵(早良)	68	6	1,133.3
菅松(東)	7 303	6 690	109.2	福浜(中央)	2 154	2 944	73.2	志賀島(東)	645	75	860.0
東光(博多)	4 393	4 060	108.2	平尾(中央)	9 989	13 378	74.7	城浜(東)	1 590	237	670.9
小呂(西)	104	97	107.2	高宮(中央)	5 486	7 344	74.7	今津(西)	1 133	247	458.7
松島(東)	9 564	8 927	107.1	赤坂(中央)	4 854	6 491	74.8	福浜(中央)	2 093	494	423.7
【年少人口割合】				【生産年齢人口割合】				【老年人口割合】			
校区 (行政区)	人口	年少人口	年少人口割合	校区 (行政区)	人口	生産年齢人口	生産年齢人口割合	校区 (行政区)	人口	老年人口	老年人口割合
	人	人	%		人	人	%		人	人	%
照葉(東)	7 936	2 597	32.7	東住吉(博多)	9 827	8 069	82.1	城浜(東)	3 264	1 590	48.7
金武(西)	6 443	1 573	24.4	春吉(中央)	12 622	10 043	79.6	志賀島(東)	1 451	645	44.5
玄洋(西)	15 465	3 304	21.4	堅粕(博多)	10 578	8 170	77.2	曲淵(早良)	153	68	44.4
千早(東)	10 990	2 127	19.4	高宮(中央)	12 830	9 875	77.0	福浜(中央)	5 098	2 093	41.1
百道(早良)	8 197	1 555	19.0	住吉(博多)	19 172	14 514	75.7	能古(西)	694	283	40.8

2. 人口動態（平成28年1～12月）

(1) 自然動態

自然増加 続く

平成28年（1～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は、出生数14,518人、出生率（人口1,000人当たりの出生数）は9.80‰（パーミル）、死亡数は11,543人、死亡率（同死亡数）は7.79‰で、自然増加数は両者の差の2,975人、自然増加率（同自然増加数）は、2.01‰となりました。

平成27年と比較すると、出生数は前年と比べ262人減少（前年比1.8%減）、死亡数は前年と比べて321人増加（前年比2.9%増）しました。自然増加数は、前年比583人の減少（前年比16.4%減）となりました。

行政区別に見ると、出生率は博多区の11.17‰が最も高く、次いで東区、西区の順になっています。死亡率は城南区の

8.48‰が最も高く、以下、早良区、西区が続いています。自然増加率が最も高いのは、博多区の3.70‰で、最も低いのは城南区の0.20‰でした。

福岡市でも高齢化が進んでおり、今後、死亡数が増加していくことが予想されることから、出生数の動向が自然動態を左右すると考えられます。

表7 自然動態の推移

	出生数	死亡数	自然増加	
			実数	率
	人	人	人	‰
H19	13 921	9 104	4 817	3.51
20	13 977	9 654	4 323	3.13
21	14 207	9 341	4 866	3.49
22	14 506	10 158	4 348	3.10
23	14 385	10 459	3 926	2.77
24	14 479	10 703	3 776	2.64
25	14 731	10 854	3 877	2.68
26	14 576	10 986	3 590	2.47
27	14 780	11 222	3 558	2.42
28	14 518	11 543	2 975	2.03

表8 自然動態

市・区	平成27年			平成28年					
	自然増加数	出生数	死亡数	自然増加数	増加率	出生数	増加率	死亡数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	3 558 (2.42)	14 780 (10.07)	11 222 (7.64)	2 975 (2.01)	△ 16.4	14 518 (9.80)	△ 1.8	11 543 (7.79)	2.9
東区	736 (2.53)	2 979 (10.24)	2 243 (7.71)	748 (2.54)	1.6	3 024 (10.26)	1.5	2 276 (7.72)	1.5
博多区	871 (4.12)	2 417 (11.42)	1 546 (7.31)	798 (3.70)	△ 8.4	2 407 (11.17)	△ 0.4	1 609 (7.47)	4.1
中央区	578 (3.27)	1 752 (9.91)	1 174 (6.64)	455 (2.55)	△ 21.3	1 635 (9.15)	△ 6.7	1 180 (6.60)	0.5
南区	435 (1.73)	2 430 (9.69)	1 995 (7.96)	418 (1.66)	△ 3.9	2 423 (9.60)	△ 0.3	2 005 (7.94)	0.5
城南区	96 (0.78)	1 052 (8.57)	956 (7.79)	25 (0.20)	△ 74.0	1 065 (8.68)	1.2	1 040 (8.48)	8.8
早良区	294 (1.37)	2 008 (9.34)	1 714 (7.98)	147 (0.68)	△ 50.0	1 967 (9.14)	△ 2.0	1 820 (8.46)	6.2
西区	548 (2.73)	2 142 (10.68)	1 594 (7.95)	384 (1.90)	△ 29.9	1 997 (9.88)	△ 6.8	1 613 (7.98)	1.2

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

転入超過 続く

平成28年の社会動態(市外との転出入の数)は、転入者数が72,139人で転入率(人口1,000人当たりの転入者数)48.70%, 転出者数が63,909人で転出率(同転出者数)43.14%, 両者の差である社会増加数は8,230人で、社会増加率(同社会増加数)は5.56%となっています。

平成27年と比較すると、転入者数は2,398人減少(対前年増加率3.2%減)、転出者数は1,897人減少(同2.9%減)し、社会増加数は501人減少(同5.7%減)しましたが、平成8年以降転入超過の状態が続いています。

行政区別に見ると、転入者数が最も多いのは博多区の16,451人で、次いで東区、中央区となっています。転出者数は博多区の13,543人が最も多く、以下、東区、中央区となっており、社会増加数は博多区の2,908人が最も多くなり

ました。平成28年は、昨年につき、すべての区で転入超過となりました。

各区の人口動態の構成を見ると、博多区と中央区は、特に社会増加数の割合が高いことが分かります。

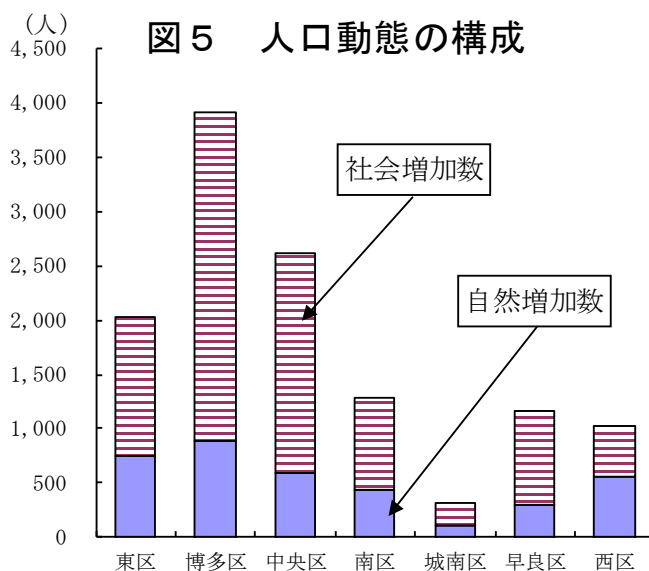


表9 社会動態（市外移動）

市・区	平成27年			平成28年					
	社会増加数 人, ‰	転入者数 人, ‰	転出者数 人, ‰	社会増加数 人, ‰	増加率 %	転入者数 人, ‰	増加率 %	転出者数 人, ‰	増加率 %
福岡市	8 731 (5.95)	74 537 (50.76)	65 806 (44.81)	8 230 (5.56)	△ 5.7	72 139 (48.70)	△ 3.2	63 909 (43.14)	△ 2.9
東 区	1 291 (4.44)	13 704 (47.10)	12 413 (42.66)	1 834 (6.22)	42.1	13 520 (45.85)	1.3	11 686 (39.63)	△ 5.9
博多区	3 038 (14.36)	16 845 (79.61)	13 807 (65.25)	2 908 (13.49)	△ 4.3	16 451 (76.33)	△ 2.3	13 543 (62.84)	△ 1.9
中央区	2 022 (11.43)	12 399 (70.11)	10 377 (58.67)	1 927 (10.78)	△ 4.7	11 999 (67.12)	△ 3.2	10 072 (56.34)	△ 2.9
南 区	848 (3.38)	10 585 (42.21)	9 737 (38.83)	303 (1.20)	△ 64.3	9 747 (38.62)	△ 7.9	9 444 (37.42)	△ 3.0
城南区	207 (1.69)	4 477 (36.48)	4 270 (34.80)	273 (2.23)	31.9	4 382 (35.72)	△ 2.1	4 109 (33.50)	△ 3.8
早良区	854 (3.97)	8 467 (39.40)	7 613 (35.43)	292 (1.36)	△ 65.8	7 926 (36.85)	△ 6.4	7 634 (35.49)	0.3
西 区	471 (2.35)	8 060 (40.18)	7 589 (37.83)	693 (3.43)	47.1	8 114 (40.16)	0.7	7 421 (36.73)	△ 2.2

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数、転入者数、転出者数。

3. 人口移動状況(平成28年1~12月)

(1) 福岡都市圏との人口移動

転出超過 続く

福岡都市圏との人口移動状況は、転入者は11,875人で、前年と比べて1,230人減少(対前年増加率9.4%減)し、転出者は13,207人で、前年と比べて499人減少(同3.6%減)しました。転入と転出の差は1,332人の転出超過となり、福岡市外の福岡都市圏への転出超過(人口流出)が続いています。

平成24年からの推移を見ると、平成27年は転入、転出ともに増加しましたが、平成28年は転入、転出ともに減少しました。転出超過数は、平成24年から2年連続で増加、平成26年以降は減少傾向にありましたが、平成28年は再び増加しました。

地域別の移動状況を見ると、筑紫地域との人口移動が最も多く、次いで糟屋地域、糸島市、宗像地域の順になっています。転入と転出の差では、いずれの地域においても転出超過となっています。

図6 福岡都市圏との転入・転出者数の推移

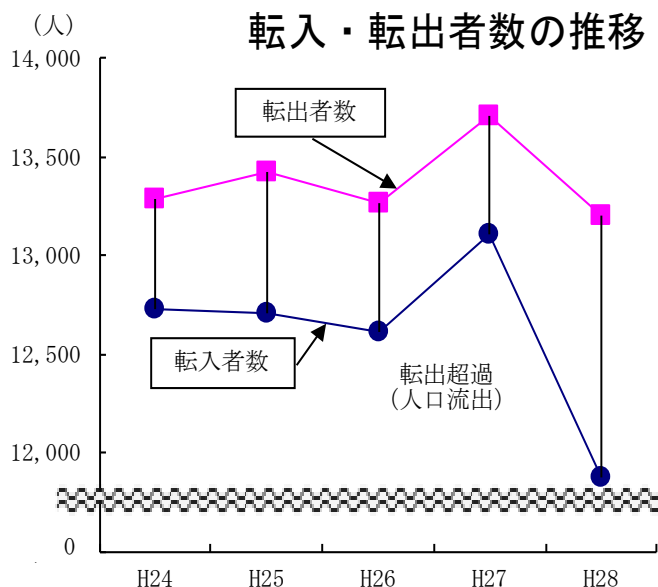


図7 福岡都市圏(地域別)転入超過数の推移

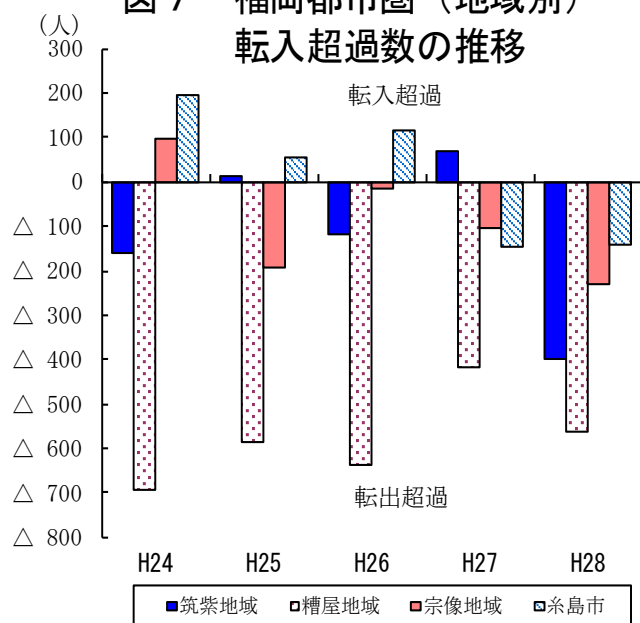


表10 福岡都市圏との人口移動状況

地域	平成26年			平成27年			平成28年				
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	増加率	転出	増加率	転入超過 (△は転出超過)
	人	人	人	人	人	人	人	%	人	%	人
計	12 614	13 268	△ 654	13 105	13 706	△ 601	11 875	△ 9.4	13 207	△ 3.6	△ 1 332
筑紫地域	5 740	5 857	△ 117	6 035	5 968	67	5 280	△ 12.5	5 677	△ 4.9	△ 397
糟屋地域	3 915	4 551	△ 636	4 139	4 557	△ 418	3 862	△ 6.7	4 423	△ 2.9	△ 561
宗像地域	1 280	1 294	△ 14	1 292	1 395	△ 103	1 214	△ 6.0	1 445	3.6	△ 231
糸島市	1 679	1 566	113	1 639	1 786	△ 147	1 519	△ 7.3	1 662	△ 6.9	△ 143

注) 筑紫地域…筑紫野市, 春日市, 大野城市, 太宰府市, 那珂川町 糟屋地域…古賀市, 宇美町, 篠栗町, 志免町, 須恵町, 新宮町, 久山町, 粕屋町
宗像地域…宗像市, 福津市

(2) 全国地方別人口移動

九州・沖縄地方との移動が約6割

全国地方別に移動状況を見ると、九州・沖縄地方との人口移動が最も多く、転入者は44,531人（対前年増加率5.0%減）で、転出者は35,422人（同3.7%減）となり、9,109人の転入超過となりました。次いで関東地方との人口移動が多く、転入者が11,393人（同0.5%減）で転出者が13,870人（同0.2%減）となり、2,477人の転出超過となりました。以下、近畿地方、中国地方、東海地方と続いています。平成27年と比較すると、九州・沖縄

地方からの転入超過数は984人の減少、関東地方への転出超過数は25人の増加となりました。

また、転入者数・転出者数ともに、九州・沖縄地方との移動が約6割、関東地方との移動が約2割を占めています。

近年の福岡市の人口移動の特徴としては、九州・沖縄地方、関東地方との移動が大きな部分を占め、また平成28年は過去4年と同様、九州・沖縄地方(福岡都市圏を除く)からは流入し、福岡都市圏と関東地方へ流出しているということが言えます。

図8 転入・転出者数の地域別構成比

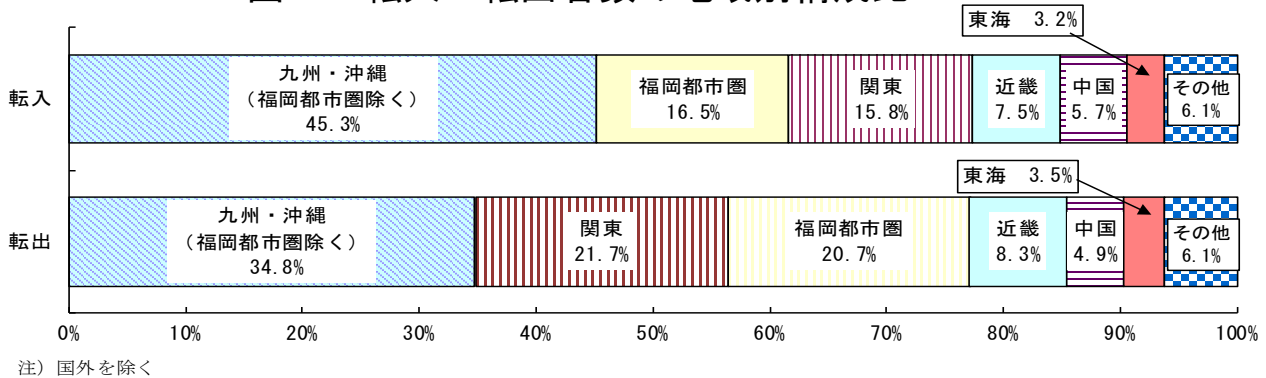


表11 地方別転入・転出者数

地方	平成26年			平成27年			平成28年						
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入		転出		転入超過		
	人	人	人	人	人	人	人	%	%	人	%	%	人
総数	70 889	64 072	6 817	74 537	65 806	8 731	72 139	100.0	△ 3.2	63 909	100.0	△ 2.9	8 230
北海道	476	482	△ 6	510	472	38	587	0.8	15.1	438	0.7	△ 7.2	149
東北	663	651	12	654	616	38	706	1.0	8.0	571	0.9	△ 7.3	135
関東	11 116	13 608	△ 2 492	11 451	13 903	△ 2 452	11 393	15.8	△ 0.5	13 870	21.7	△ 0.2	△ 2 477
北陸甲信越	585	504	81	606	573	33	583	0.8	△ 3.8	532	0.8	△ 7.2	51
東海	2 004	2 140	△ 136	2 341	2 346	△ 5	2 303	3.2	△ 1.6	2 233	3.5	△ 4.8	70
近畿	5 142	5 216	△ 74	5 455	5 466	△ 11	5 375	7.5	△ 1.5	5 331	8.3	△ 2.5	44
中国	3 949	3 210	739	4 195	3 216	979	4 133	5.7	△ 1.5	3 123	4.9	△ 2.9	1 010
四国	863	734	129	897	721	176	892	1.2	△ 0.6	737	1.2	2.2	155
九州・沖縄	44 621	35 845	8 776	46 879	36 786	10 093	44 531	61.7	△ 5.0	35 422	55.4	△ 3.7	9 109
国外	1 470	1 676	△ 206	1 548	1 705	△ 157	1 636	2.3	5.7	1 651	2.6	△ 3.2	△ 15
住所不明	—	6	△ 6	1	2	△ 1	—	0.0	皆減	1	0.0	△ 50.0	△ 1

注1) 東北地方…青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県 関東地方…茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県 北陸甲信越地方…新潟県, 富山県, 石川県, 福井県, 山梨県, 長野県 東海地方…岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県 近畿地方…滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県 中国地方…鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県 四国地方…徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県 九州・沖縄地方…福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県
注2) 都道府県別の転入・転出者数, 福岡都市圏の市町村別転入・転出者数は97,98ページに掲載